

平成27年度 [教務部] 自己評価

年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 教育課程の点検と研究 ◆ シラバスの点検 ◆ 教科指導力の向上 ◆ 教務内規の見直しと整備 ◆ 			
	具体的な計画の目標・評価方法	年度内の成果や課題、達成状況(中間評価) [9月末]	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策
1	現行教育課程の点検と検討	各教科には検討を依頼したが、全般的な検討は行っていない 評価： A B (C) D	現行教育課程全体的な点検と検討は消化不良。 評価： A B (C) D	現行教育課程の問題と改善点を確認する。 点検・修正は1学期中に行う。
2	シラバスの点検と修正	シラバスは概ね出来上がり、各教科で修正・検討している段階。 検定教科書使用との兼ね合いを検討する必要がある。 評価： A B (C) D	検定教科書との兼ね合いも検討され、シラバスの骨格は出来上がった。 評価： (A) B C D	次年度のシラバス公開に向けて、さらに検討を重ねる。
3	教科会議との連携を深め、カリキュラムの充実と教科指導法の向上をはかる	文理共通カリキュラムの検討を各教科で行っている。 教科指導法の向上をはかる取り組みは、一部の教科のみでの実施にとどまっている。 評価： A B (C) D	教科指導法の向上をはかる取り組みは、一部の教科のみでの実施にとどまっている。 評価： A B (C) D	教科主任会議で何をやるかが明確でないため、教科主任会議のあり方自体を検討する必要がある。
4	教務内規の見直しと点検・整備	字句の修正は始めたが、見直し作業には取り組んでいない。 評価： A B (C) D	字句の修正と見直しは始めが、組織との整合性を考慮した修正案は作成できていない。 評価： A (B) C D	来年度の組織と整合性のある修正案を早急に作成する。
5	備品の管理と発注を適正に行い節約に努める	先を見越しての管理ができていなかった。 節約に対しても、効果的な方法を見出せていない。 評価： A B (C) D	複数の目での確認を行ったが、備品の品目も多く先を見越しての管理ができなかった。 評価： A B (C) D	複数の目で、定期的に点検と確認を行う。 文具等の消耗品に関しては、在庫が少なくなった時点で報告をもらなど、利用者の協力を依頼する。

平成27年度 [進路指導部] 自己評価

年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 生徒一人ひとりのニーズを満たすための幅広くかつきめ細かい進路指導に努める ◆ 生徒一人ひとりが個々の適性に合った進路選択ができるように努める ◆ 生徒一人ひとりの進路志望実現を目指し、それに必要な学力増進と進路意識の向上に努める ◆ 様々な進路行事を通じて難関大学への意識を高め生徒の可能性を最大化することに努める 		
具体的な計画の目標・評価方法	年度内の成果や課題、達成状況(中間評価) [9月末]	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策
2 大学入試に向けたモチベーションアップの方策の検討 (低学年次からの難関大への意識づけ)	<p>今年度も、京大キャンパス訪問(中学3年生4月)、京大公開講座(中学3年生8月)、東大OCツアー、医系進学者育成P、最難関大学突破P、希望者対象ハイレベル模試などの取り組みを実施。今後も積極的にモチベーションアップに繋がる取り組みをしていきたい。</p> <p>評価： (A) B C D</p>	<p>「医系進学者育成プログラム」「最難関大学突破プログラム」ともに、日程や講師の調整が難航することもあったが、無事に予定の回数を実施することができた。名大訪問が不可能となり、中3で2回京大に足を運ぶこととなったが、内容を工夫して効果的に実施できた。</p> <p>評価： (A) B C D</p>	<p>進学実績の向上のためには、学力育成は当然必要であるが、意識や目的などの見えない力を育成することも同じくらい重要であると考え。生徒が参加・体験することにより、進路実現の助けとなりモチベーションアップにつながる取り組みを検討し実施していく。</p>
4 新大学入試に関する情報収集	<p>高大接続システム改革会議から9月に公表された「中間まとめ」においても、新テストについての具体的なあり方・作問方法・評価方法などの肝心な部分は依然として「今後の検討」として先送りされている。年度末公表予定の「最終報告」に向けて、今後も情報収集を継続する。</p> <p>評価： (A) B C D</p>	<p>12月に改革の目玉の一つである「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の記述式サンプル問題が公表されたが、50万人分の採点の数カ月かかるという点やそこから派生する実施時期の問題、採点基準の公平性の担保の問題など、まだまだ問題が山積みである。</p> <p>評価： (A) B C D</p>	<p>現時点でもまだ新テストの中身が見えてこない。検討が進むにつれて様々な課題に直面しており、入試制度の見直しの難しさが、改めて浮き彫りになっていると言える。年度末に予定されている「最終報告」まで、あと1カ月余りとなったが、今後も情報収集を継続する。</p>
5 各模擬試験実施後の振り返りシートの活用	<p>全体への報告の迅速化を図るため、昨年度から教科別の分析シートは各学年教科で活用、学年の全体概況を記載した学年用シートのみを職場全体に報告としたが、まだ報告の遅い模試がある。成績資料到着後1週間を目途に全体に報告できるように努めてほしい。</p> <p>評価： A (B) C D</p>	<p>成績資料到着後1週間を目途に全体に報告という目標のもと、スムーズに報告できた学年(模試)もあったが、成績返却後かなり時間が経ってから報告される模試がいくつかあり、全体的な迅速化とはならなかった。また、現時点で未報告の模試も一部ある。</p> <p>評価： A (B) C D</p>	<p>各学年の模試結果を全体で共有すること、分析結果から学年や教科で課題を確認することは必要であると考え。また、センター試験の平均点が全国平均点を下回る教科があるので、模試結果をもとに積極的に教科会議等で指導法の再検証をし、得点アップに繋げて欲しい。</p>

平成27年度 [保健人権教育部 (保健)] 自己評価

年度 目標	◆ 自らの心身に関心を持ち、積極的に健康生活を送ることができる生徒を育成する ◆ 自らを大切にするとともに、他者への思いやりや生命を大切にしようとする生徒を育成する ◆ 建学の精神に則り、学校教育活動全体を通じて保健教育を行う ◆ 教職員の心身の健康の保持増進に努める			
	具体的な計画の目標・評価方法	年度内の成果や課題、達成状況(中間評価) [9月末]	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策
1	健康診断をはじめとする各保健行事の円滑な実施	4月～6月の生徒健康診断では各先生方にご協力いただき、事後措置まで円滑に実施することができた。職員健康診断でも今年度は100%の受診率(予約含む)となっており、昨年度からの呼びかけの効果が出ていると思われる。 評価： (A) B C D	生徒健康診断では計画・実施・事後措置まで円滑に実施することができた。職員健康診断では、計画・実施までは問題なく行われたが、事後措置(精密検査・健康相談)については、本人任せになってしまっている。個人のプライバシーに配慮しつつ、どう健康増進につなげていくかが課題。 保健学習として、2月に4年生性教育、3月に5年生薬物乱用防止教室を実施した。また4年生の保健の授業では初めて救急法の実技を取り入れていただけた。今後もぜひ継続したい。 評価： (A) B C D	現在、次年度の健診計画を作成中であるので、今年度の反省点を生かしつつ、より適切・円滑な実施を目指したい。職員健診では実施方法が大きく変わるので、混乱が起らないように事前の研修や情報伝達をしっかりと行いたい。 また保健学習は、生徒の生き方を考える良い機会になると思うので、内容を精査しながら継続して取り組みたい。
2	日常の救急処置・保健指導・健康相談の適切な実施	日常の保健室での対応については、4月以降大きなトラブルもなく適切に実施されている。が、養護教諭不在時の対応については、保健室常駐教員の授業等の関係で、どうしても無理が生じる。救急体制の確立は学校運営上必要なことだと思うので、対策を講じたい。 評価： A (B) C D	概ね、左の通り。養護教諭在校時については特に問題はないが、不在時の体制が万全ではない。養護教諭の複数配置が実現しない以上は、関係の先生方(保健室常駐教員、担任)にご協力をいただくしかないのが現状。 評価： A (B) C D	養護教諭の複数配置、または6年制と3年制合同の保健室の設置などが、救急体制確立のためには効果的と思われるが、現状は難しい。であるならば、現状を理解していただいた上で、関係の先生方にご協力いただけるように、日頃の連携や情報交換を密に行っていききたい。
3	人権教育相談室との連携を密にする	日頃から情報交換を密に行い、保健室と人権室の垣根を越えて対応に当たることができた。それぞれの職種の専門性や部屋の特異性を生かして、今後も個々の支援に当たっていききたい。 評価： (A) B C D	概ね左の通り。人権室で支援している生徒は、保健室でも支援するという気持ちで日々対応してきた。毎日人権室に立ち寄り、情報交換を行うことで、急な生徒対応にも柔軟に対応できたと思う。 評価： (A) B C D	次年度も今年度と同じように、日頃の情報交換を大切に、個々の状況に応じた支援を行っていききたい。「チームで、迅速に」動くことを念頭におきつつも、「生徒に寄り添う」という大原則を忘れずにいたいと思う。
4	災害・感染症など、非常時への対応	災害・感染症対策の予算計上を行い、物品購入を進めている。具体的には各館にインフルエンザ・ノロウイルス対策を講じ、災害時備蓄品として衛生用品の準備を進めている。設置は12月末までには終わらせる予定。 評価： A B (C) D	災害時備蓄品の選定に時間がかかり、まだ準備ができていない状態。早急(年度内)に準備ができるように検討中。非常時への対応として、職員への心肺蘇生法の講習を計画していたができなかった。他校では職員だけでなく生徒への講習も一般的になってきた今、対応を急ぐ必要がある。 評価： A B (C) D	災害・感染症対策については、次年度も継続して進めたい。災害はいつ起こるかわからないため、もう少し迅速な計画・準備が必要。また職員への消防署による心肺蘇生法の講習を、次年度は必ず実施したい。

平成27年度 [入試対策部] 自己評価

年度 目標 ◆ 受験生増 450名目標 ◆ 愛校心をもって、積極的・効果的(分かりやすい)広報活動を行う ◆ 建学の精神、学校目標・努力目標・教育諸実践と密接に連携していく	年度内の成果や課題、達成状況(中間評価)〔9月末〕	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価)〔2月末〕	最終評価を踏まえた改善点・向上策
具体的な計画の目標・評価方法			
1 ○受験生増加の為の効果的な(分かりやすい)広報活動の展開 ○医進・選抜コースを含めた、効果的な広報活動の展開 ・積極的な情報提供と情報入手 ・入学後の自分をイメージし易いようなPRを行い、第一志望者の割合を増やす。 ・6年制としての特色(医進・選抜コースを含)、教育活動を分かりやすく発信する。 ・HPを始め、広報資料を効果的に利用する。	・医進・選抜コースの認知度は年々上昇傾向。 ・受験生掘り起こしに関しては、三重県私立中学校フェア・低学年対象に講座体験をメインにした鈴中DAYは概ね好評。次年度は規模拡大を考慮。 ・塾主催の保護者・塾生への説明会も増加傾向。可能な限り対応して、学校説明会への動員、受験生増につながる。 ・志望校決定面談時期前に塾訪問を強化し実施。 ・HPのリニューアルに関しては、担当者の尽力によるところが大きい。最重要ツールでもあり、反響も大きい。	・在校生参加イベントの募集を担ってよい。その後情報も行う。 ・在校生の保護者への情報不足。 ・説明会は、参加者増(昨年比1.2~1.5倍)であったものの志願者は昨年比+6名で327名。県内受験生増は本校だけといった状況とはいえ入学者の大幅増加は厳しい現状。しかし、数ありきの募集ではなく内容重視の方針は崩せない。 ・塾に頼った募集活動である現状の中で、塾対象説明会の案内、ポスター掲示依頼、学校案内の配布等、こちらの依頼があるときの訪問が中心であったのが反省点。情報交換はある程度できている認識であるが、日常的な訪問と情報交換が必要。積極的な募集と塾はもとより、受験生・保護者のニーズを的確に捉える努力が必要。経験則では太刀打ちできない。	・経験則だけではなく、保護者・受験生・塾のニーズを的確にとらえ確実に発信する。・パンフレット・HPについては具体的な取組の発信。・第一志望者の増加。 ・医進・選抜コースのイメージの訴求。具体的な取組の発信。 ・在校生を見せるイベント及び場の提供を増やす。 ・SUZUKA6(広報誌)の有効活用(編集者に生徒を加える) ・在校生参加のイベントへの積極的な呼びかけ。大学入試結果や在校生の状況報告などを1学期中には一通り実施する。 ・HPを最大限に利用した広報活動。(タイムリーに更新できる業者の選定も考慮)・“わかりやすい”、掘り起こしの為の各種教室などへの広報活動は次年度も継続。
2 ○教職員全員体制での広報活動の展開 ・日常的教育諸実践が広報活動であるという高い意識を全教職員と共有し積極的な広報活動への参加へ。	・説明会等への協力体制及び先生方の積極的な協力姿勢はありがたい。 ・様々な先生方が各種説明会に参加して頂くことは好評。 ・生徒の活動が効果的にPRできるように、引き続き協力とアイデアを頂く。	・説明会等は、先生方や事務部の協力を得ながらうまくいっている。 ・HP等を活用しながら、学校の行事に合わせてタイムリーな情報発信に至っていない。 ・積極的に広報していく意識はありがたい、現場の勢いにつながる。	・日常的教育実践の公開・全教職員が参加協力という面で、公開授業・各種行事の一般公開などでも、「本校生徒(私学生徒)のアピール」という点で考えていく。 ・現場の熱意、協力体制を減少させないように、行事での生徒の様子を伝えるなど、タイムリーな情報発信を心がける。可能な限り、アイデアは即実践。 ・教職員全員体制を実践するための、企画・発信・検証を確実に実行。
3 ○説明会の充実 ○在校生の教育実践発表の場としての広報活動の充実 ・参加者の直接体験を重視したプログラムの実施。 ・低学年を意識した、受験生掘り起こしのための企画の立案・実施。 ・本校の教育実践の発表の場を広げる企画の立案実施。(ショッピングモール発表会、小学校の出前授業など) ・在校生の参加を積極的に依頼する。	・学校説明会や私立中学校フェアでは充実した説明ができた。 ・6月説明会、10月説明会はいずれも、昨年比約1.4倍の参加者。今年度新設の8月の3・4年生対象の体験イベントはかなりの高評価。次年度は近隣地域とも連携し、規模を拡大して実施。 ・塾対象説明会においても、概ね好評。学校主催説明会は他校との重複や、小学校の土曜授業、大手塾のイベント等日程調整に配慮必須。慎重に。 ・在校生の説明会への参加は好評。様々な生徒が参加できるプログラムも必要。	・説明会の参加人数が増(6月・10月は昨年比1.4倍、1月は土曜授業の影響もあったが、昨年比1.3倍)は、広報成果の一つ。しかし、新しい層の掘り起こしに及び、大幅な受験生増までにもっていけない現状。データベースを作成し、各種説明会参加→出願→入学に至る流れを確認し今後も経験則でなく、データをもとに検証し、少しでも参加者に満足して頂けるようなプログラムも精査していく。	・説明会の校舎案内においても在校生に手伝ってもらって案内する、クラブ生の発表の場等とに本校生と受験生の接点を作る。 ・放送部に協力依頼し、生徒作成の学校紹介映像を作成する。 ・アンケートやイベントの事前申し込み情報の活用。今年度より改めてテーマ毎のデータベースのもととなるものの作成を開始。次年度も継続。アンケートの質問内容を精査し、受験生増につながる情報及び、受験生(その保護者のニーズ)を把握し、受験生及び在校生の満足度向上につなげる。
4 ○編入生の募集活動の見直しをする ・3年制広報とも連携した中学校訪問の実施。 ・中学校及び塾のニーズに応じた資料の作成。	・医進・選抜コースへ編入PR等が新たなトピック。積極的に情報発信する。 ・3年制に依頼しての活動や、各種説明会への広報部としての一部参加はある。本校(6年制)のみの活動はほとんどできていない現状。秋には、中学校での進路集会、塾主催の説明会を含め、6年制の教職員が直接PRする場面が残っているので、先生方にも協力を依頼しながら実施予定。 ・3年制広報とも協力して資料を作成している(今年度は作成終了)が、特に編入生のみデータを求められることも多い。その準備は例年同様進路指導部とも協力して、来春春に向けて、事前に準備を進めていく必要あり。	・3年制にほぼ委託しているのが現実。編入生募集として、6年制単独の募集活動を行うことが全くできていない。受験生昨年655名→今年701名。受験生増とはいえ、医進・選抜コースへの合流可能なシステムが受験生には届いていない部分がある。鈴鹿の良さを前面に出して、県立進学校との明確な差を打ち出す必要あり。	・学校として明確な編入生の位置づけと入試制度の見直し(当然3年制の制度と合わせて)を確定する必要あり。中長期的な戦略の中であれば広報としての説得力が増す。それに加えて、入試対策部として編入制度への付加価値の提供。在校生との切磋琢磨。編入生だけの手厚い指導。編入生自身の母校訪問など。とにかく生徒を見せる取組みを実施する。
5 ○広報活動の実施自体が目的にならないよう、計画・実施・評価・改善を柱に具体的な活動に結び付ける。 ・広報活動一つ一つの目的を明確にし、常に費用対効果と募集効果を検証する。 ・教職員からの幅広いアイデアの集約。 ・生徒募集にかかわる項目を精査し、実施可能なものから実施する。	・医進・選抜コースの認知度は年々増加傾向。鈴鹿の良さをさらに売り込むために、新大学入試センター試験に向けて、1年生が実施している取組を含め、学年・分掌からの情報提供を受け、引き続き積極的な外部発信を心がける。 ・既成概念にとらわれない柔軟な発想は必要であり、募集戦略に大きく関わる部分である。動ける範囲の枠はできる限り早めに提示を受け、外部発信が後手に回ったり、鈴鹿の信頼を損ねる結果にならない様留意する。 ・入学→在学中の成績→大学合格実績の追跡調査を引き続き行う。正確なDBを作成し、募集活動(鈴鹿は一人ひとりを伸ばす学校)に説得力をもたせる。何より、生徒の進路保障につなげる。	・細部に至っては、改善できた点はあるが、大枠として昨年から大きく変えられた点は少ない。 ・鈴中DAY(講座体験イベント)等は鈴鹿を発信する足がかりとしての手ごたえあり。とにかく“見せる”努力を続ける。 ・既成概念にとらわれない柔軟な発想は必要であり、募集戦略に大きく関わる部分である。動ける範囲の枠はできる限り早めに提示を受け、外部発信が後手に回ったり、鈴鹿の信頼を損ねる結果にならない様留意する。 ・入学→在学中の成績→大学合格実績の追跡調査を引き続き行う。正確なDBを作成し、募集活動(鈴鹿は一人ひとりを伸ばす学校)に説得力をもたせる。何より、生徒の進路保障につなげる。	・直接講座体験イベント等は鈴鹿を発信する足がかりとしての手ごたえあり。とにかく“見せる”努力を続ける。 ・3年制入試対策と連携した広報情報物の効果的な作成(※27年度内にスタート)。 ・同一印刷物等を精査し、効果的な広報戦略につなげる。 ・生徒の活躍の場と広報イベントの融合。 ・費用対効果を客観的に判断できるDBを作る。受験生との接触→出願→入学に至るなかで、効果的なイベントと効果的な情報提供、及びニーズに応じたイベント(プレゼン・企画内容)を割出していく。

平成27年度 [生活指導部] 自己評価

年度 目標	◆ 基本的生活習慣の確立 ◆ 全職員による生活指導、見過ごさない指導の強化 ◆ 建学の精神、学校目標、努力目標と密接に連携していく 1 時間意識の確立 2 校外・安全指導の徹底 3 制服の正しい着用 4 挨拶・交通安全			
具体的な計画の目標・評価方法	年度内の成果や課題、達成状況(中間評価) [9月末]	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者指導 ・下校指導(追い出し) ・ベル授業 ・遅刻集計とその指導 	遅刻の理由を必ず聞くようにして減少している。 クラブの顧問の指導ができています。 早めに教室に入る教師が増えている。 常習者の指導を検討中。清掃活動等も検討中。 評価： A B C D	遅刻の理由を必ず聞くようにして減少している。 クラブの顧問の指導や放送で呼びかけができていますが冬時間帯となり下校時間が守れない生徒が多くなった。 早めに教室に入る教師が増えている。 25分ぎりぎりの遅刻者が多い。 評価： A B C D	常習者の指導が必要である。学年との連携を密にする。現状を継続していく。 完全下校の強化をしていく。 チャイムが鳴ると同時にスタートできるようにする。 担任に集計表を渡せるようにする。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導 ・一斉登校指導 ・下校指導 ・不審者対策 	副担任を中心に毎日指導をした。マナーを守らす指導をしていきたい。 指導場所の検討をする必要がある。(2人1組) 生指を中心に指導したが、毎日できなかった。 不審者の被害生徒のサポートをし、警察と共に対応していきたい。 評価： A B C D	副担任を中心に毎日指導をした。声掛けを継続。 駅周辺を中心に指導ができた。苦情の電話も減少。 生指を中心に指導したが、毎日できなかった。 不審者情報を生徒に連絡することができた。 評価： A B C D	立つポイントも検討していく。 農道を中心に声掛け、誘導をしていく。 警察と密に連携をとり、学校全体に情報提供をしていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・身なり・服装指導 ・頭髮指導 	学年を中心に指導中である。 学年を中心に指導中である。 評価： A B C D	学年を中心に指導中である。 学年を中心に指導中である。 評価： A B C D	学年と共に声掛けを継続していく。 学年と共に声掛けを継続していく。 教職員全体でこれからのスタンスを考えたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶指導 ・自転車点検 ・交通指導 	生徒会を中心に挨拶運動を行った。今後強化をしていく。 無登録の自転車を減らすことができた。 1年生対象に南自動車学校の講習を実施した。 評価： A B C D	生徒会を中心に挨拶運動を行った。 無登録の自転車を減らすことができた。 登下校での教師の声掛けを継続する。 評価： A B C D	部活動と連携をとり生徒側から挨拶ができるように指導する。 定期的に自転車点検を実施していく。 継続指導が必要。講習は毎年お願いする方向で進めている。
5		評価： A B C D	評価： A B C D	

平成27年度 [総務部] 自己評価

年度目標	具体的な計画の目標・評価方法	年度内の成果や課題、達成状況(中間評価) [9月末]	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策
◆ 学校運営、学校行事、日常業務が円滑に行われるよう取り組むこと。 ◆ 入試対策部と連携し、志願者数増および入学者の定員確保に向けて取り組むこと。 ◆ 目指す防災教育目的「全員生存」に向け、巨大災害発生時に生徒・教職員の生命を守ること。 ◆ PTA活動を活発に行うことで保護者と学校との連携を深めること。 ◆ 同窓会活動を通し、同窓生と学校のつながりを強化すること。	1	<p>より効率的で成果の得られる学校運営、学校行事、日常業務を行う策を練ること[事後の取り組みにならないようタイミングを逸しない]。</p> <p>◆学校運営、学校行事(案内発送等含め)、日常業務(スクールバス運行、メールチェック等含め)に大きな支障なく取り組めた。 ◆奨学金など生徒に向けて発信しなければならないものが多いので、案内到着後すぐに動くよう心がけた。 ◆朝の打ち合わせに出られない先生方のFirstClass「打ち合わせ黒板」読み取り率を100%に至っていない。</p> <p>評価： A B C D</p>	<p>◆日常の業務に関して概ね支障なく進めることができた。 ◆行事関係のスクールバスは、引き継ぎも含め、概ねスムーズに運営できた。 ◆奨学金について、常に最新の情報が提供できるよう、掲示方法に工夫を心がけた。</p> <p>評価： A B C D</p>	<p>◆スクールバスやパン販売も含め、学校運営や日常業務を円滑に進めるため、常に先に目をやる必要がある。 ◆校舎が分かれていることもあるので、中等部生徒にも奨学金の案内などの情報が目に留まるよう、さらに工夫が求められる。</p>
	2	<p>志願者数450名を目標に、通塾していない児童が多く集まる場所で本校をアピールする機会を作るなど、私立中学校への進学を考えていない児童の掘り起こしに向けた取り組みも行うこと。</p> <p>◆例年通りの説明会はこなしているものの、通塾していなかったり、私立中学受験を考えていない児童の掘り起こしに向けた取り組みは十分でない。今後の説明会等を利用して、本校のアピールをより強化する必要がある。</p> <p>評価： A B C D</p>	<p>◆志願者数450名を目指して募集活動に取り組んだが、微増にとどまり、目標達成は果たせなかった。 ◆説明会への参加者が増えたことでより多くの児童へのアピールができ、次年度以降への道筋については少なからずできたように思う。</p> <p>評価： A B C D</p>	<p>◆目標志願者数達成に向け、通塾していない児童に対するアピールの方法を改めて具体的に考える必要がある。 ◆単年度で考えず、小学校低学年児童を対象にするなど、先につながる募集活動も引き続き行う必要がある。</p>
	3	<p>先進校に学んで防災教育を充実させ、生徒・教職員の防災意識をより高めるとともに、火災・地震の発生時に安全に避難できるよう、校内の危険箇所・避難経路をチェックすること。</p> <p>◆4月に悪天候で実施できなかった避難訓練を9月には実施することができた。実際の火災や地震に対応できる訓練にしていきたい。 ◆災害等のためにも、各家庭のメール配信登録率を100%としたい。</p> <p>評価： A B C D</p>	<p>◆9月に避難訓練を実施できた点はよかったが、防災に関する講演会など、次につなげられる取り組みを行うことはできなかった。 ◆校内の危険箇所の把握が十分にできなかった。</p> <p>評価： A B C D</p>	<p>◆4月の時点でより具体的な年間の計画を立てるべきであった。 ◆校内の危険箇所把握に向け、点検を進める必要がある。</p>
	4	<p>PTA本部役員と学級委員で構成する広報部・研修部・厚生部の活動に理解・協力を得、PTA主催行事等への保護者・教職員の参加依頼をより強化すること。</p> <p>◆本部役員も新体制となり、協力の姿勢を崩すことなく意見の言える雰囲気の中で活動ができています。今年度は緊縮財政の中でよくやっている。 ◆PTA本部役員と学級委員の活動が活発になってきている一方で、それ以外の保護者・教職員の意識の変化があまり見られない。</p> <p>評価： A B C D</p>	<p>◆毎月PTA役員会を開き、活動の根幹をなしている。 ◆研修部会は、講演会やコンサートの開催に向けてポスターチラシ作成や周辺市の後援をとるなど精力的に活動できた。 ◆広報部は、協力体制も十分で、次年度部長候補への引き継ぎも順調に行うことができています。</p> <p>評価： A B C D</p>	<p>◆予算縮小の中での「広報すずか」を作成しなければならないことが見込まれ、広報誌の内容等を見直す必要があるかもしれない。 ◆現在の活動を担っている方々の退任に伴い、引き継ぎをきちんと行うことが求められる。 ◆教員の積極的な参加が一層求められる。</p>
	5	<p>広報誌やFacebookを通して同窓会の活動を同窓生に伝え、理解・協力を得ること。</p> <p>◆12月までに広報誌第2号を発行するために、現在、活動を進めている。広報誌を中心として、Facebook等による活動も充実させたい。</p> <p>評価： A B C D</p>	<p>◆年内に広報誌第2号が発行できなかった(年度内には発行の予定)。 ◆今年度から高等部卒業生の証書ホルダーの費用を同窓会から出すことになった。</p> <p>評価： A B C D</p>	<p>◆次年度以降もさまざまな形で協力を続けていくために、同窓会役員の役割を整理し、年間スケジュールを立てて計画的に活動することが求められる。</p>

平成 28 年 3 月 29 日

学校関係者評価委員会報告書

本来は、一回ずつ作成すべきところ、今回は、学校関係者評価委員会を立ち上げたところなので、1年まとめて報告いたします。

1 学校関係者評価委員会開催日時等

第 1 回学校関係者評価委員会：平成 27 年 3 月 17 日（火）17 時 00 分～18 時 15 分

第 2 回学校関係者評価委員会：平成 27 年 11 月 24 日（火）17 時 00 分～18 時 20 分

第 3 回学校関係者評価委員会：平成 28 年 3 月 28 日（月）17 時 00 分～18 時 15 分

場所：事務室横会議室

委員：元 PTA 会長、元 PTA 副会長、庄野小学校長、庄野羽山三・四丁目自治会会長、同窓会副会長

学校：学校長、副校長、教頭、（総務部長、教務部長、生活指導部長）

2 学校からの報告（教頭より報告）

（1）保護者アンケートから

・質問事項 1～11 で 7 月から 12 月への数値変化を伝え、顕著な変化が表れている項目〈生活指導：基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを身につけられるような指導がおこなわれている〉について補足説明をした。

（2）自己評価（学年・分掌等）から

① 教務部：カリキュラムの検討の具体的な動きを実施する。

② 総務部：日常の業務に関して概ね支障なく進めることができた。志願者数 450 名を目指して募集活動に取り組んだが、微増にとどまり、目標達成は果たせなかった。

③ 入試対策部：別紙「平成 28 年度 鈴鹿中学校入試概要」をもとに説明。自助努力は、したが定員充足に至らなかったのもより本校の特色の PR を前面に出していく。

④ 生活指導部：学年団や生徒に働きかけているが、欠席や遅刻が常習化している生徒もいる。また、身だしなみを含め、マナーの重要性を指導しているが、一部の生徒には改善が見られない。

⑤ 人権教育・保健部：人権教育の啓発機会を増やして意識向上に努めたい。

3 学校関係者評価委員会が出された主な意見

(1) 保護者アンケートについて

・質問項目の満足度〈子供を入学させてよかった〉で、7月と12月の回答「そう思う」の平均は57%であるが、50%以上の数値であるのはすばらしいと思います。また、肯定意見の「そう思う」「ややそう思う」を合わせて90%を超える数値もすばらしい。

・質問項目の生活指導〈基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを身につけられるような指導がおこなわれている〉で、7月と12月の回答「そう思う」の平均は、34%にとどまっており、課題である。改善に取り組むことを期待される。

(2) 自己評価（校務分掌の評価）について

・目標や具体的目標、成果が明確になっておりわかりやすく、ここまでの教職員の方々の活動に敬意を払い、今後の発展に期待します。

・「本年度の課題」は、目標なのか、昨年度の課題点から生まれてきたものかよく分からない、課題の設定に工夫が欲しい。

(3) その他

・表彰生徒の一覧を拝見し、これも大きな教育成果の指標になると思えました。今後も期待をします。

・子供がお世話になってから学年を追うごとに良いところが増えています。そのことを知り合いの方にも伝えていますが、まだ周知されていないこともあるので、学校の良さを強くアピールしていただきたい。

3 おわりに

今年度より学校関係者評価委員会を始動し、委員の方から貴重な意見をいただけたことと同時に地域の方との交流につながったことが成果であった。貴重なご意見として、学校内外で活躍した生徒を表彰することは良いことで、表彰対象者数が増えることは、学校を活性化する力になるとのことであった。今後ホームページ等で学校外へ活動結果の情報を提供することに努める。また、本校の教育活動内容等を地域へもっと発信するべきであると実感したので、ホームページの充実につながるよう校内におけるシステムを構築する必要がある。

この委員会でもいただいたご意見やご指摘を次年度の改善につなげていきたい。

【添付資料】

保護者アンケート、分掌自己評価、表彰一覧表

平成27年度 7月実施 学校関係者評価 [保護者対象アンケート集計]			そう思う	やや そう思う	ややそう 思わない	そう 思わない
1	教育目標	学校の教育目標が保護者や生徒に明確に示されて建学の精神である「誠実で信頼される人に」の人間形成がはぐくまれている	36 %	56.1 %	6.4 %	1.2 %
2	学習指導	学習指導において生徒一人ひとりの能力に応じた適切な指導をしている	43.5 %	45.3 %	10.6 %	0.6 %
3	進路指導	学年に応じた進路指導が充実している	40.6 %	55.3 %	3.5 %	0.6 %
4	生活指導	基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを身につけられるような指導が行われている	38.5 %	50.9 %	8.9 %	1.8 %
5		一人ひとりの生徒の様子を常に把握し、悩みや相談に親身になってのってくれる	40.1 %	49.7 %	9.6 %	0.6 %
6	学校生活	学校行事やクラブ活動などで、生徒の活躍できる機会が多い	37.6 %	51.8 %	9.4 %	1.2 %
7		保護者の意見を真摯にうけとめ、親切に物事に対応してくれる	46.2 %	47.4 %	5.8 %	0.6 %
8	教育環境	安心・安全で満足のいく施設・設備である	45.3 %	42.4 %	11.2 %	1.2 %
9	家庭との連携	学校からの情報はホームページや通信等で十分に保護者に伝わっている	39.4 %	50.6 %	10.0 %	0.0 %
10		PTA活動が活発である	31.6 %	56.1 %	11.7 %	0.6 %
11	満足度	子どもを入学させてよかった	56.7 %	39.8 %	2.9 %	0.6 %
お気づきの点があれば、記入してください。			<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場の後ろを陸上部が走るのをやめてほしい。 ・駐車がガタガタなのを整備してほしい。 ・鈴鹿中学校は大学の進学実績があまりよくないのでもっと実績をあげてほしい。指定校など推薦を使ってみてはどうかと思う。 ・高等部の校舎はずいぶん古いと思います。寄付を募ってもいいので、ぜひ改築を考えていただきたいと思います。 ・3年生迄の教室とすぐ違うので、もう少しなんとかしてほしい。 ・トイレをもう少しキレイに直して頂けたらと思います。 ・大学受験に向けてより細かなアドバイスを頂けると幸いです。 			

平成27年度 12月実施 学校関係者評価 [保護者対象アンケート集計]			強く そう思う	やや そう思う	ややそう 思わない	そう 思わない
1	教育目標	学校の教育目標が保護者や生徒に明確に示されて建学の精神である「誠実で信頼される人に」の人間形成がはぐまれている	39.7 %	55.6 %	4.0 %	0.7 %
2	学習指導	学習指導において生徒一人ひとりの能力に応じた適切な指導をしている	41.3 %	46.7 %	10.0 %	2.0 %
3	進路指導	学年に応じた進路指導が充実している	43.0 %	49.7 %	6.0 %	1.3 %
4	生活指導	基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを身につけられるような指導が行われている	29.8 %	60.3 %	8.6 %	1.3 %
5		一人ひとりの生徒の様子を常に把握し、悩みや相談に親身になってのってくれる	43.7 %	47.0 %	7.9 %	1.3 %
6	学校生活	学校行事やクラブ活動などで、生徒の活躍できる機会が多い	39.1 %	50.3 %	9.9 %	0.7 %
7		保護者の意見を真摯にうけとめ、親切に物事に対応してくれる	48.0 %	44.0 %	6.0 %	2.0 %
8	教育環境	安心・安全で満足度のいく施設・設備である	43.7 %	45.0 %	9.9 %	1.3 %
9	家庭との連携	学校からの情報はホームページや通信等で十分に保護者に伝わっている	36.8 %	50.0 %	11.8 %	1.3 %
10		PTA活動が活発である	28.9 %	56.6 %	11.8 %	2.6 %
11	満足度	子どもを入学させてよかった	57.0 %	38.4 %	3.3 %	1.3 %
お気づきの点があれば、記入してください。			・定期考査後の授業の雰囲気や内容をもっとしっかりしてほしい。(2年生) ・駐車場(2G)が冬場は真っ暗。外灯はつけないのか？正門前も外灯が少ない。(4年生)			